若い人に多い内分泌性高血圧

やまなし医療最前線

県立中央病院から

《87》

早期診断で根治の可能性

祢津光広副院長

全国に4300万人もの患者がいる高血圧症。「治らない病気」というイメージが強いが、原因が明らかな高血圧（二次性高血圧）には「治る高血圧」もある。副腎などからホルモンが過剰に分泌されて高血圧になる内分泌性高血圧で、正しい診断によって手術での根治が期待できる。

県立中央病院糖尿病内分泌内科の祢津光広副院長によると、内分泌性高血圧は若者から壮年者に多いのが特徴。診断がつかずに発見が遅れるケースが多く、重大な合併症を起こして生活の質（QOL）を損なう恐れもあるという。

内分泌性高血圧には副腎疾患の原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などがある。副腎は二つの腎臓上部にそれぞれある内分泌臓器で、皮質と髄質から成り、生命を維持する上で不可欠な多くのホルモンを分泌している。

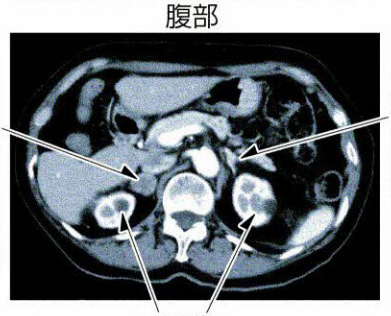
原発性アルドステロン症は、副腎皮質に腫瘍ができたり、肥大化したりしてアルドステロンというホルモンが過剰に分泌される病気。最近では全高血圧の5％前後と、決して少なくないことが分かってきた。

片方の副腎に腫瘍ができた場合は腹腔鏡下手術で切除が可能。両方の副腎の場合や手術を希望しない場合はアルドステロン拮抗（きっこう）薬を中心に薬物治療を行う。

クッシング症候群は副腎皮質にできた腫瘍からコルチゾールというホルモンが、褐色細胞腫は副腎髄質にできた腫瘍などからカテコールアミンというホルモンが、それぞれ過剰に分泌されることが原因。いずれも外科的手術が治療の第一選択となる。

祢津副院長は「早く診断して治療すれば根治の可能性があり、薬をやめることも可能。脳卒中や脊椎圧迫骨折、心不全などの合併症も防ぐことができる」と早期診断の重要性を指摘。降圧薬が効かない人や比較的若い人、血圧が160／100以上の人は、積極的に内分泌性高血圧のスクリーニング検査を受けるよう勧めている。＝第2、4木曜日に掲載します

原発性アルドステロン症



掲載日：2015年03月12日／ぶんくら／紙面頁013
紙面・記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用はお断りします。Copyright 山梨日日新聞社